



Vol. 38 No. 2
2021. SEP



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483
E-mail akita_ot_kouhou@akita-ot.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号
TEL/FAX 018-837-0552
E-mail akita_ot@akita-ot.jp



巻頭言

少しでも涼しく過ごすひとつの方法

秋田大学大学院医学系研究科 保健学専攻 作業療法学講座

浅野 朝秋

2021年8月11日午後7時6分。担当する老年期障害のテスト結果を、システムにアップロードしてフィードバックしたところである。学生には不評だろうが、記述式試験は、教えが不十分なところや、学生の考えを映し出す良い鏡だと思う。

この時期は、臨床実習報告会も行われる。教員を始めて15年目。現職は3校目だが、どこでも同じように実習報告会が行われる。しかし最近少し気になることがある。介護施設等で行われる集団レクに参加しない方を、問題視する見方である。本人が参加を望んでいるのに、本人の交流技能などが低くて参加できないのではない。本人は自己選択して不参加を選び、自分の時間を別のことに使っているのだ。背景には「できるだけ多くの人と交流するのは良いことだ」「空気を読んで、周囲のみんなにあわせるのは良いことだ」という価値観があるように思える。だが自分のことを振り返っても、事実を伝えることと、自分の意見を伝えることをあまり区別せずに、学生に自分の価値観を押し付けていたことはあったかもしれない。

”価値観の押し付け”でもう一つ。80歳になる自分の母親は、趣味の剣舞に打ち込みすぎ？で、股関節に負荷がかかりすぎたのか、痛みに耐えきれず、ついにこの夏、人工股関節置換術を受けた。母親は県北で一人暮らし、現時点ではまだ入院中である。母親の入院中、これ幸いと自分は度々実家を訪ねて、猛暑のなか汗だくになりながら床に散乱したものや溜まりにたまった粗大ごみ（に自分には見える）を片っ端から片づけて、ベッドやテーブルなどの搬入ルートやスペースを確保した。自分はどちらかというとアン

チ「断捨離」派だが、この時ばかりは物を捨てない母親に憤りを感じた。しかしこれも価値観押し付けのおせっかいかもしれない。多分、母親は一人暮らしの気楽さから、好きなように自分の家を使っていたのだろう。他人にはゴミでも本人には思い入れがあるものかもしれない。安全確保の名目で片づける前に、本人の許可を取るべきだったとちよつと後悔した。ちなみに身体障害・老年期障害の領域で働く作業療法士に実施した調査※でも、約 2/3 の作業療法士が「本人のためになるから」として、同意が無くても作業療法を実施していることを報告している。“価値観の押し付け”は往々にしてトラブルを呼び込む。それを防ぐには、多様な価値観があることを認識し、自分の立ち位置を示したうえで意見や判断を示すのが良いと考える。経験、性別、年代、居住地域が異なれば、お互い正しいと思うことは異なるのが当然という立場からスタートしたほうが軋轢を生まないだろう。猛暑の中、ワクチンか反ワクチンかなどをめぐって、頭に血を上げず少しでも涼しく過ごすためにも。

※ 山野克明、作業療法に同意しない対象者へ作業療法を行うことは許されるのか？

作業療法 32 巻 1 号, 2013.

学会長より

第 28 回秋田県作業療法学会を終えて

中通りハビリテーション病院 川口 将史

2020 年 4 月に開催される予定であった第 28 回秋田県作業療法学会は約 1 年遅れで、2021 年 4 月 24 日に開催されました。コロナ前に実行委員会議に参加された方々にはその後、もう集まる事も出来ずお礼のあいさつも出来なかったもので、この場を借りて感謝申し上げます。

昨年春には秋田県が（世界が）どのようになるのか、学会や研修会は今後できなくなるのではと思い、発表演題の査読は終わって、特別講演の内容、講師も決まっていたので、学会誌を発行して中止にしたかったのですが、1 年延期になっていました。

世の中、技術が飛躍的に進歩するのは戦争等の有事の時ですが、今回のコロナウイルス感染症でもオンラインでの研修や学会がこの 1 年で確立されてきました。皆さんもご存じの通り、石川隆志先生が学会長の第 54 回日本作業療法学会や秋田県臨床実習指導者研修等がオンデマンド、オンラインで成功して実績ができ、第 28 回秋田県作業療法学会も無事オンラインで大きなトラブルもなく盛会のうち終えることができました。

一般演題は昨年の予定よりは取り下げがあり、演題数が減ってしまいましたが、もちろん例年に劣ることなく素晴らしい発表ばかりで、座長の采配のおかげもあり質問意見が活発で、かつスライドも見やすく発表者、参加者にとっても良い経験になったと思います。

また、特別講演においては千葉県立保健医療大学の藤田佳男先生に 1 年も待っていただき、今年の学会に合わせて最新の知見も盛り込んでいただきました。メールでのやり取りが主で、

実際に藤田先生には1度もお会いしたことがなく、特別講演前後のブレイクアウトルームで初めてまともにお話しするというのも不思議な経験でした。しかし、コロナ前からいつも思うのは作業療法士というだけで、打ち解けてお話しできるのは同職種の特権かなというのはオンラインでも感じられました。

心残りなのは新入県士会員歓迎会兼懇親会ができなかったことですが、これはやはりオンラインではなく密になって行いたいので、早く以前のような世の中に戻って欲しいものです。

来年度の第29回秋田県作業療法学会は津軽谷恵先生が学会長で行われることが決まっています、オンラインか会場で対面かは現時点では不明ですが、更に盛会に開催されることを願ってペンを置きたいと思います。

お詫び 前月号「38-1」において川口将史先生に頂いた原稿をこちらの不手際で掲載することができず、今回号に掲載する運びとなりました。この場をお借りしまして、川口先生並びに講読を楽しみにしておられた方々へお詫び申し上げます。



印象記 「東北学会の未来を語る会」に参加した話

秋田回生会病院 平岡 雄哉

さて、私がこの県士会ニュースに寄稿させて頂くのも、今回が3回目か4回目か、そのくらいになります。ある日、依頼のお電話を頂いたのですが、その際に担当の方に字数制限を伺ったところ「平岡さんには字数制限はありません」とのこと。そう、私は前から、投稿した文章が字数制限を大幅に超過する人間なのです。ついに諦められたようです。想いと字数が溢れてしまうというのは編集する方にとって恐ろしいことです。普通であればこれは「そこそこの文章量で提出してくださいね」というメッセージ性が含まれているものと理解することが出来ますが、私はそのような付度は一切いたしません。好きなまま書いてみます。そしてそのまま送信します。我ながら空気が読めず恐ろしいです。(この後、案の定差し戻しを頂き、笑いネタ部分を大幅に削除して文章を半分にしました(笑))。

というわけで、本題についてですが、私は岩手県士会が中心となり開催された『第31回東北作業療法学会』中で行われた「未来図会議」の一員として、東北学会の在り方について語り合う機会を頂きました。この会議は「何を話しても受け入れてもらえる」場であったと思います。私はこの会議に参加して、好きなように発言出来ましたし、他の方もそうだったはずですが、一般でいう「会議」のような固い雰囲気は一切ありませんでした。実際どのような体感だったかを伝えることは難しいですが、会議の様子の写真を添付してみます。未来図会議の内容については下記のような文言でお知らせを頂きました。①東北で活躍する



若手・中堅作業療法士が「東北の作業療法の未来を語る場」を設け、未来の作業療法学会への夢や希望、在り方を創造し、ディスカッションする。②学会に関する内容のみならず、東北で従事する作業療法士のネットワーク作りにも貢献する。③提案された内容、アイデアは、可能なものから岩手学会の運用に取り入れる。終了してから振り返ると、まさにその通りの進行と結果になったと感じます。

各回の詳しい会議の内容・進め方は割愛しますが、参加者全員がコミュニケーション好きであり、一人として後ろ向きな意見がなかったのが強く印象に残っています。そして、どの議論においても、「実現できるかどうか」よりも「実現するためにはどうしたらよいか」が話題の中心となりました。これは患者さんに接するときの作業療法士としてのスピリットにもつながるものだと感じます。一般的な会議あるあるとしては、「実現可能性についての言及が中心となり、批判的な意見が出ることが多い」ですが、この未来図会議は、ひたすら前向きなものだったと断言できます。

意見を出し合うだけで終わることはもちろんなく、今回の学会ですぐに実現されたものも多くあります。全て紹介したいのですが、ここではその一つの、「オンライン交流会」について触れさせて頂きます。7つ設定したテーマそれぞれに興味のある人が、開催日にオンラインで集まり、交流・意見交換をするというものです。これは、オンライン学会に慣れている業者の方々も初めての試みであるとのことでした。横のつながりを作ることも学会の大きな意味の一つであるものの、オンライン学会で実現するのは、とてもチャレンジングな企画であったと思います。私は「依存症者の支援」についての交流会を担当し、また他のテーマの交流会もいくつか参加しましたが、実際にそこで知り合った方と現在も、メールにて情報交換を続けているところです。

少しだけ残念だったのは、やはりオンライン上でのやり取りは、便利さの半面に物足りなさが共存していることです。会議の最終回には、「リアルに対面で会いたいね」「次回の青森の学会で飲み会しましょう」と、居酒屋の予約をどうするかという話まで出ました。このような世の中でよりデジタルが進歩したのは、仕事の効率化や距離を超えた幅広い出合いを促進するという意味で、本当に素晴らしいことだと思います。一方で、それを気付かせてくれるのは、人とのアナログなつながりの重要性だということは、皆さんも同意見ではないでしょうか。早くみんなで集まりたいですねー、という切な思いで今回の文章を締めたいと思います。お読み下さりありがとうございました。



シリーズ「作業療法と生活考」NO. 78

「教育力」

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

皆さんは、大学や専門学校において、教育学を受講、学習した記憶はありますか。基礎専門科目としての教育学や専門科目で教育について少しふれていたかもしれません。しかし、系統的に学ぶ機会は少なかったと思います。先日、臨床実習指導者研修に参加する機会があり、オンラインにより学生の指導のあり方についてワークショップ形式で開催されました。そこでも教育について触れていました。多くの方が教育と聞けば学校教

育をイメージすると思います。そこでは受ける側、学ぶ側となっていました。そこで今回は教える側の視点から考えてみたいと思います。教育とは、文字通り教え育てること。知識、技術などを教え授けること。人を導いて善良な人間とすること。人間に内在する素質、能力を発展させ、これを助長する作用など多様な目的があります。しかし、教育の「教」が中心になっています。先生や指導者からの一方向的な講義が多くなかったでしょうか。その中で先生方は授業や内容を工夫して展開しています。

今、教育が変わろうとしています。大学においてもアクティブラーニングの導入が求められています。養成教育の変革の時期でもあります。同時に臨床教育も変革が求められています。診療参加型実習の導入も検討されています。私も大学教員の立場から教育に関わっていますが、卒業生からはレポートが多く、大変だったというイメージがあったと思います。チームによる協働学習、学生による教育への参加などを取り入れた教育と研究を展開しました。卒業生の皆さんには社会人になって参考または役立っているでしょうか。授業評価は学生の時もありますが、働いてからの評価も大事です。最近の教育は短期的なものが重視されがちですが、長い目でみることも必要だと思います。この変革についていけないこともあります。自分自身から関心を持って学び、習慣にするための教育のあり方も必要です。大学や専門学校では、高等学校までの学びから学びを学ぶ時期で、卒業後も見通して自分の学びを変える、試行錯誤、体験する時期だと思っております。その為にも教育環境を構築整備することが重要です。作業療法士は国家試験がありますので、基礎学力も必要なことは事実です。しかし、以下のポイントも重要となります ①思考する型を身につける。特に科学的思考法で「どうして」「本当は」「なぜ」と考える習慣をつける。②専門知識を身につける ③教養を身につけ、人生を豊かにする。④新しい知を創り出す。学校教育、卒後教育、成人学習、キャリア教育などの連携を見据えた環境整備やシステムが必要になります。県士会や日本作業療法士協会の活動は重要になり、役員や担当者の方には感謝です。

現場では、作業療法士も先生と呼ばれることが多いです。患者やケースへの治療、指導、支援などをやっています。また、学生の実習の指導、新人の指導など教育の要素も大きいです。しかし、経験的に実施されていることも多いです。体験と同時にティーチング、コーチング、ファシリテーションなどの概念も意識することで違ってきます。患者や対象者を自ら積極的に学ぶ存在とし、学びの支援、行動の支援、環境への働きかけにより、可能性を広げることができます。人や作業療法士も支援する環境の一人です。専門家は自分の関わり方、支援方法、内容、環境などをデザイン、構築、振り返るためにも「教育」について考えるのもいいかもしれません。下記の本も参考になりますので読んでみてください。

本も教育手段の環境です。教育力をつけましょう。

参考本

- 1) 丸山仁司,堀本ゆかり:リハビリテーション専門職のための教育学. 医歯薬出版(株) 2021
- 2) 出江紳一: コーチング活用ガイド, 医歯薬出版(株) 2009
- 3) その他 教育学の本

新企画案内『みんなで語るべ～日々の楽しみ方～』

前年度まで皆様には書評の原稿執筆を依頼しておりましたが、多忙の中でのご協力、誠にありがとうございました。今年度からは新しく『みんなで語るべ～日々の楽しみ方～』という企画を始めたいと思います。COVID-19の影響で制限されている日々の中でどの様に工夫し過ごしているのか？そして日々の中での楽しみ方や仕事の一場面などを紹介していただき、書き手は気楽に、読み手はホッと読める皆様の交流の場となるコーナーになればと思っています。今年度は広報部で原稿を投稿させてもらい、来年度からは会員の皆様に原稿執筆をお願いしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

例えば…◎休日に〇〇してリフレッシュしています！

◎わたしはこんな作業療法やっています！などなど



語り手:大湯リハビリ温泉病院

患者さんと散歩中、山桜の種が落ちており、「昔これをお手玉の中に入れて作ったんだよ」と教えてくれました。一緒に種を拾い、何十年ぶりのお手玉作成をしてもらいました。

最近では古くなったお手玉の修理や雑巾縫い、野菜作りを頑張り、スタッフくらい働いてもらっています!(´・ω・´)



私が最近ハマっていることはお外ごはんです。家の外でご飯を食べると普通のサンドイッチでも気分も上がりいつもよりおいしく感じられました。子どもたちもペロリと完食し「また食べたいね」と話しました。ホットサンドメーカーも購入し、これからますます外で食べる機会が増えそうです。

職場紹介

医療法人祐愛会 加藤病院 佐々木 亜佳里

当院は昭和 56 年 10 月に秋田市河辺に開設し、平成 8 年 9 月には同法人で隣接する介護老人保健施設のシルバーケアセンター清遊園を併設しました。

“仁愛の心を旗印に…良質で良心的な医療の提供を目指します”を基本理念に緑あふれる環境のもと、安心安全な医療を提供しています。病床数は精神療養病棟(開放)が 60 床、精神療養病棟(閉鎖)が 45 床、認知症治療病棟(閉鎖)が 55 床の計 160 床となっています。地域の方々からは“山の病院”と親しまれ、もうすぐ 40 周年を迎えます。



作業療法活動は各病棟専従 3 名、病院所属 1 名の計 4 名で行っており、統合失調症、気分障害、認知症などの様々な精神疾患を対象に作業療法活動を提供しています。

精神療養病棟で行われる精神科 OT では、OT 室や各病棟ホールにて、AM・PM 各 2 時間、手芸や集団レクリエーションを提供します。対象者の配置や活動の内容などそれぞれにあった環境調整をして集中力や協調性を含む諸機能の維持・向上を目指した関わりを心がけています。2 時間の作業に目的もなく参加するのではなく、対象者本人の目標や医師の方針を踏まえた目標を設定し、対象者に今何が必要なのかを個別の会話での関わりを通して共有し作業活動に対するモチベーションをもって参加してもらうように介入しています。

認知症治療病棟では生活機能訓練の一部として作業療法を提供しています。棟内 ADL や余暇時間に介入し、対象者の機能維持を図り、AM は創作活動や茶話会、PM は集団レクリエーションを行っています。活動を通して対象者同士の交流を促し、離床の機会を増やし活動性の維持につなげます。対象者は悲観的になってしまう場面が多いため、成功体験で自己肯定感を高められるように対象者のレベルに合った活動の選択や声掛けをします。



